未来世代礼拝　(高)　礼拝　１２月①

復帰摂理⑤　イエス路程①「独り子イエス様と洗礼ヨハネ」

みなさんは、イエス様のお話はどこまで知っていますか？今回は、イエス様のお話です。

イエス様はメシヤとして来られました。さて、メシヤの目的は何でしょう？

一つ目は、本当の神様を伝えることです。これまで、ノアやアブラハム、モーセなどの多くの預言者がいましたが、本当の神様を伝え切ることはできませんでした。それは、神様の子女ではないからです。イエス様は神様の子女なので、本当の神様を伝えることができるのです。

二つ目は、アダムとエバが失敗した、本来の神様の家庭をつくり、堕落した人間を救うことです。そうして、この地上に天国を実現することが、神様がイエス様を独り子として送られた目的でした。

その目的を達成するために、神様はイスラエル民族を教育してきました。イエス様は、そのイスラエル民族の基盤の上で、来られました。

そのイエス様が、メシヤとして地上に天国をつくる為に大事な役割をする人が、洗礼ヨハネでした。

洗礼ヨハネは、どのような人だったかと言うと、荒野で修道生活をし、神様の為に、国の為に、これから来られるであろうメシヤの為に多くの涙を流し、ユダヤ民族の中でも、彼こそがメシヤではないかと、噂されるくらいの方だったのです。

当時、ユダヤ民族は、ユダヤ民族の中にメシヤが来られるという預言を信じていました。また、メシヤが来られる前に、メシヤを証しする「エリヤ」という人物が来るという預言を信じていました。エリヤは、メシヤが来られた時に、ユダヤ民族がすぐにメシヤに従っていけるように、ユダヤ民族をまとめ、メシヤのもとに導く使命を持っていました。

その様にして、神様は洗礼ヨハネを、イエス様を証しするエリヤの再臨の使命者として準備されたのでした。

洗礼ヨハネがイエス様と出会ったとき、洗礼ヨハネは、体を水に浸す、ユダヤ教の悔い改めの儀式である洗礼を、人々に授けていました。そして、イエス様もその洗礼を受けに来られたのです。

その時の様子が聖書では、このように書かれています。

「すると、見よ、天が開け、神の御霊がはとのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』」(マタイ3.16～17)

洗礼ヨハネがイエスに洗礼を授けると天が二つに裂け、聖霊が鳩のような姿で現れ、神様の声が聞こえたのです。そして、神様ご自身が、イエス様は私の息子であると教えて下さったのです。そうして、洗礼ヨハネも、イエス様のことを人々に証しました。

このように、神様が堂々と教えて下さったからには、疑いようがないですよね。

洗礼ヨハネも、はじめはイエス様のことを信じていました。

でも、そのような状況は段々と変わってしまいました。

イエス様がメシヤとしてユダヤ民族の前に立つためには、洗礼ヨハネは、神様を信じ愛する条件と、ユダヤ民族との間でカイン・アベルとして人を愛する条件の、二つの条件を立てなければなりませんでした。この条件のことを、原理の言葉では信仰基台と実体基台といいます。

洗礼ヨハネは、荒野での歩みを通して、神様を信じ愛するという、信仰基台を立てることは出来ましたが、イエス様を不信しました。そうして洗礼ヨハネが、ユダヤ民族をメシヤにつなげるためのアベルの位置を離れたためユダヤ人たちは実体基台を立てることができなくなったのです。

洗礼ヨハネは、神様から直接イエス様が神の子であると伝えられたにも関わらず、イエス様のことが信じられなくなっていきました。

そして、ユダヤの人々から「あなたは、エリヤですか？」と尋ねられた時に、エリヤではないと答えてしまったのです。ユダヤの人々は、メシヤかもしれないと言われているような洗礼ヨハネと、まだどんな方か正体が分からないイエス様のどちらの言うことを信じるでしょうか。

ユダヤの人々は、洗礼ヨハネの言葉を信じてしまったのです。

　結局、洗礼ヨハネはイエス様を不信し、エリヤの使命を果たすことができませんでした。そして、神様の願いを果たすことのできなかった洗礼ヨハネは、イエス様とは関係のない別のことで首をはねられ、悲惨な最期を遂げることになったのです。

洗礼ヨハネがイエス様を不信し、離れていく姿を見て、イエス様や神様はどのような心情だったのでしょうか。考えてみてください。

そうして、洗礼ヨハネがエリヤの使命と責任を果たせなかった為、メシヤであるイエス様ご自身が、洗礼ヨハネの代わりにもう一度、メシヤを迎えるための基台である、信仰基台を立てなければならなくなったのです。

イエス様は、荒野で40日間の断食祈祷を通して、侵入したサタンを分立する条件を立てなければなりませんでした。

そして、40日の歩みを無事に終えられる前後に、サタンが三つの試練を与えてきました。

しかし、イエス様は、つらい環境の中でも、サタンの誘惑に負けることはありませんでした。そうして、その試練を越えることで、神様を信じ愛する条件である、信仰基台を立てることができたのです。

イエス様は、人間始祖が堕落してから、初めて誕生した神様の子でした。

そして、メシヤとして来られましたが、洗礼ヨハネという大事な人物が、神様から願われている責任を果たせなかったことによって、メシヤとして来られたイエス様ご自身が、洗礼ヨハネの道を行かなければならなくなりました。

皆さんにも、必ず神様が与えた役割や責任があるのです。その役割や責任は何だろうか？と日々考えながら、洗礼ヨハネのように神様を悲しませることのない私たちになれるように、これからも頑張りましょう。